

2016年の大雨

台風の影響で東日本から北日本にかけて記録的な大雨

1. 概要

平成28年の梅雨入りは、沖縄地方、奄美地方で遅かった。一方、九州南部、九州北部、中国、近畿、東海、関東甲信の各地方で早かった。四国、北陸、東北南部、東北北部の各地方は、平年並だった。

梅雨明けは、沖縄地方、奄美地方でかなり早かった。一方、東海、関東甲信、東北南部の各地方で遅かった。そのほかの地方は、平年並だった。

6月6日から7月15日にかけては、梅雨前線の影響で、西日本を中心に大雨となり、被害が発生した。また、8月16日から31日にかけては、台風第7号、台風第11号、台風第9号、台風第10号の影響で、東日本から北日本にかけて記録的な大雨となり、甚大な被害が発生した。さらに、9月17日から20日にかけては、台

風第16号の影響で、西日本を中心に大雨となり、被害が発生した。

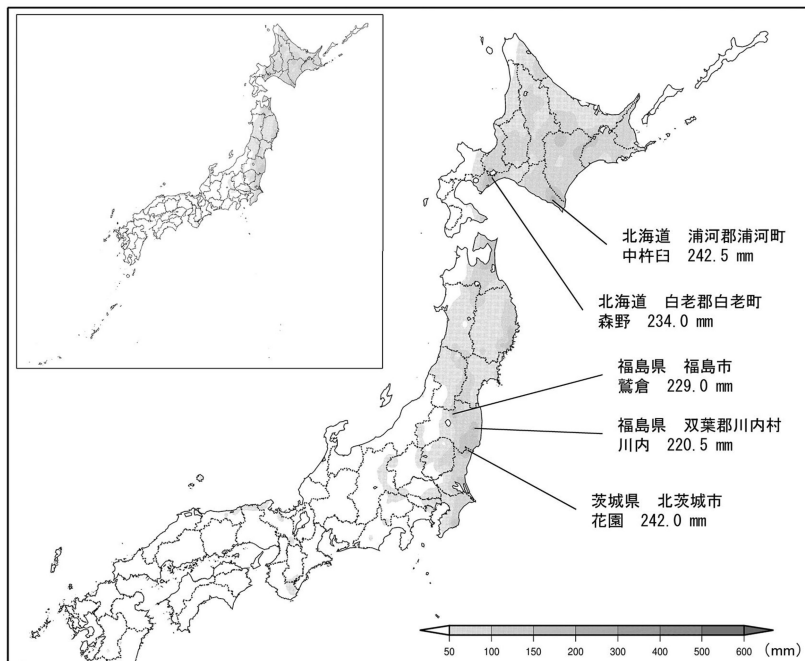
2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、气象台や測候所などの場合はその官署名を、アメダス地点の場合は都道府県名、市町村名及び地点名とした。

(1) 4月6日～4月7日： 西日本から東日本（大雨）＜低気圧，前線＞

4月6日から7日にかけては、前線を伴う低気圧が東シナ海から日本海を通り三陸沖に進んだ。前線や低気圧の影響で、西日本から北日本にかけては雨が降り、西日本や東日本では、日降水量が100 mmを超える大雨となった所があった。

この影響により、西日本から東日本にかけて道路の通行不能、航空機の欠航等の交通障害、農業施設等の被害、停電等が発生した。（被害の状況は、気象庁調べ）



※上位5位の地点については地点名・値を記載

第1図 総降水量分布図（期間：8月16日～8月18日）

(2) 4月16日～4月18日：

西日本から北日本（大雨，暴風）＜低気圧＞

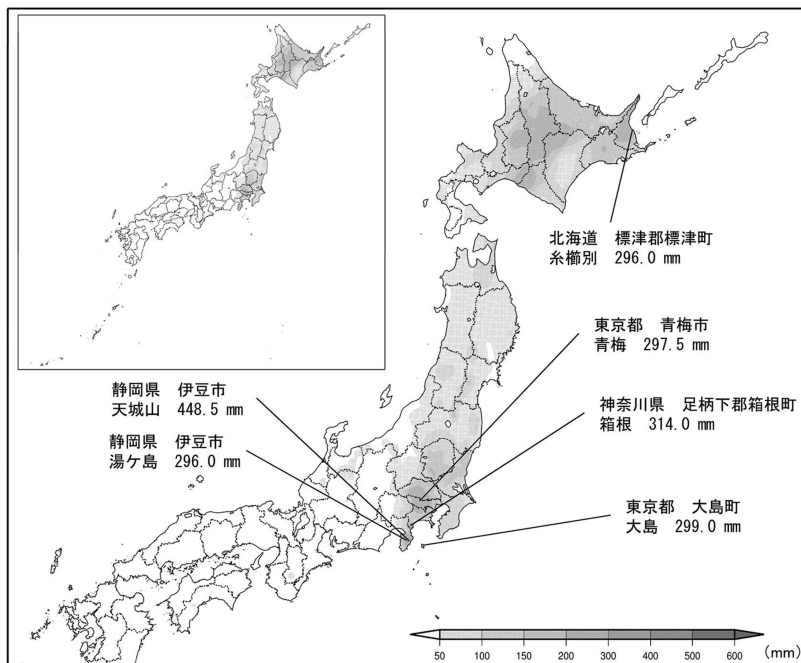
4月16日から18日にかけては，前線を伴う低気圧が華中から日本海を通り北海道付近に進み，千島の東海上に達した．前線や低気圧の影響で，全国的に雨や雪が降り，九州北部地方や四国地方では日降水量が100 mmを超える大雨となった所があった．また，西日本から北日本にかけて非常に強い風が吹き，東北地方では猛烈な風が吹いた所があった．

これらの影響により，西日本から北日本にかけて鉄道の運休，航空機の欠航等の交通障害が発生した．また，鳥取県や青森県では大規模な停電が発生した．（被害の状況は，気象庁調べ）

(3) 6月6日～7月15日：全国（大雨，突風）＜梅雨前線，低気圧，大気不安定＞

6月6日から7月15日にかけて，梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し，断続的に大気の状態が不安定となり全国各地で大雨となった．特に，6月19日頃から24日頃にかけて，前線が本州付近に停滞し，その前線上に複数の低気圧が発生したため，九州地方を中心に日降水量が200 mmを超える大雨となった．また，7月7日頃から15日頃にかけては，九州付近の低気圧が前線を東に進んだため，西日本太平洋側を中心に日降水量が200 mmを超える大雨となった．

大雨により，西日本を中心に土砂災害や浸水害等が発生し，死者・行方不明者7名，負傷者10名の人的被害が発生したほか，住家被害や，道路の通行不能，鉄道の運休，航空機・船舶の欠航等の交通障害，停電，水道被害，電話の不通等のライフラインの被害が発生した．また，大気の状態が不安定となったため，6月20日には岩手県で，7月14日から15日にかけては関東地方を中心に，竜巻等の突風が発生した．（被害の状



※上位5位の地点については地点名・値を記載

第2図 総降水量分布図（期間：8月20日～8月23日）

況は，気象庁及び，平成28年8月1日の内閣府の情報による）

(4) 8月1日～8月3日：東日本から北日本（大雨）＜大気不安定＞

8月1日から3日にかけては，低気圧が日本の南海上でほとんど停滞して消滅したほか，気圧の谷が北日本を通過した．低気圧や気圧の谷，上空の寒気の影響で，東日本や北日本の多い所で日降水量が100 mmを超える大雨となった所があった．また，大気の状態が不安定となったため，雷を伴った所があった．

雷の影響により，愛知県，長野県，千葉県，群馬県では大規模な停電が発生した．（被害の状況は，気象庁調べ）

(5) 8月16日～8月31日：全国（大雨，暴風，突風，高波）＜台風第7号，台風第9号，台風第10号，台風第11号＞

8月16日から31日にかけては，台風第7号，第11号，第9号，第10号が相次いで上陸し，東日本から北日本を中心に大雨や暴風となった．

8月16日から17日にかけては、台風第7号が関東地方から東北地方の太平洋沿岸を北へ進み、北海道襟裳岬付近に上陸し、オホーツク海で温帯低気圧に変わった。第1図には8月16日から18日の総降水量分布図を示す。

8月21日には、台風第11号が三陸沖を北へ進み、北海道釧路市付近に上陸した。また、8月21日から23日にかけては台風第9号が伊豆諸島近海を北へ進み、千葉県館山市付近に上陸した後、北海道日高地方に再上陸した（北海道に年間2個、再上陸も含めて3個の台風が上陸したのは1951年の統計開始以来、ともに初めて）。第2図には8月20日から23日の総降水量分布図を示す。

8月28日から31日にかけては、台風第10号が日本の南海上から三陸沖に進み、岩手県大船渡市付近に上陸し、日本海で温帯低気圧に変わった（東北太平洋側への台風上陸は1951年の統計開始以来、初めて）。また、8月17日から23日にかけて北日本に、8月26日から27日にかけては本州付近に前線が停滞した。第3図には8月26日から31日の総降水量分布図を示す。また、8月22日には日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの

竜巻が岩手県奥州市で発生したほか、千葉県及び宮城県で、竜巻等の突風が発生した。

これらの影響で、東日本から北日本を中心に大雨や暴風となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生した。特に、8月20日頃から23日頃にかけての台風第11号、第9号及び前線等による大雨では北海道や神奈川県で死者計2名、8月26日頃から31日頃にかけての台風第10号、前線及び低気圧等による大雨では北海道や岩手県で死者計22名の人的被害が生じたほか、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。（被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による）

(6) 9月3日～9月5日：全国（大雨，暴風，高波） ＜台風第12号＞

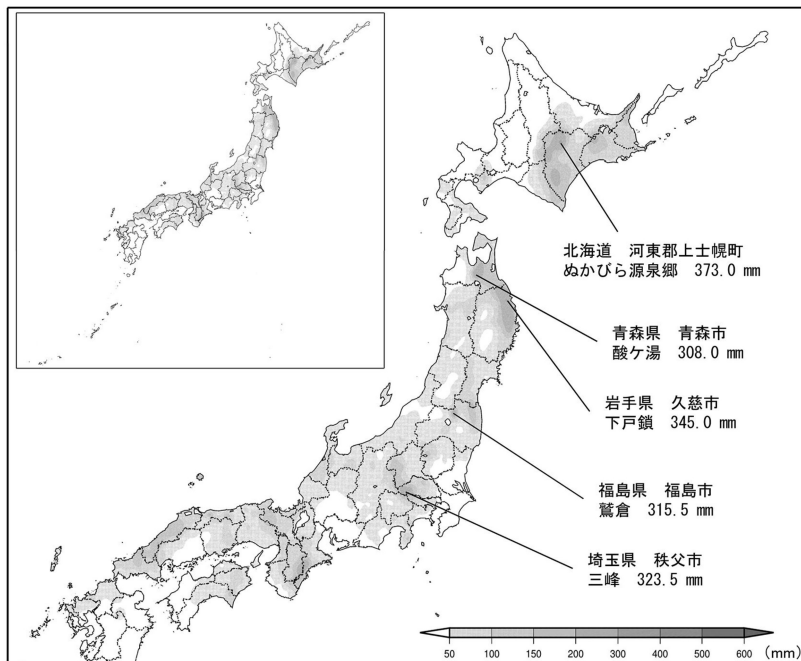
9月1日09時に沖縄の南海上で発生した台風第12号は、九州の西海上を北上した後、5日01時過ぎに長崎県長崎市付近に上陸し、03時に熱帯低気圧となった。

台風や湿った空気の影響で、奄美地方の多い所で日降水量が300 mmを超えるなど、九州南部・奄美地方を中心に大雨となった。また、長崎県長崎市野母崎で21.7 m/sの最大風速を観測するなど、九州では暴風となった所があり、海は大しけとなった。

これらの影響で、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。（被害の状況は、平成28年9月4日の内閣府の情報による）

(7) 9月6日～9月7日： 全国（大雨，暴風，高波）＜台風第13号，低気圧，前線＞

9月6日15時に久米島の北海上で発生した台風第13



※上位5位の地点については地点名・値を記載

第3図 総降水量分布図（期間：8月26日～8月31日）

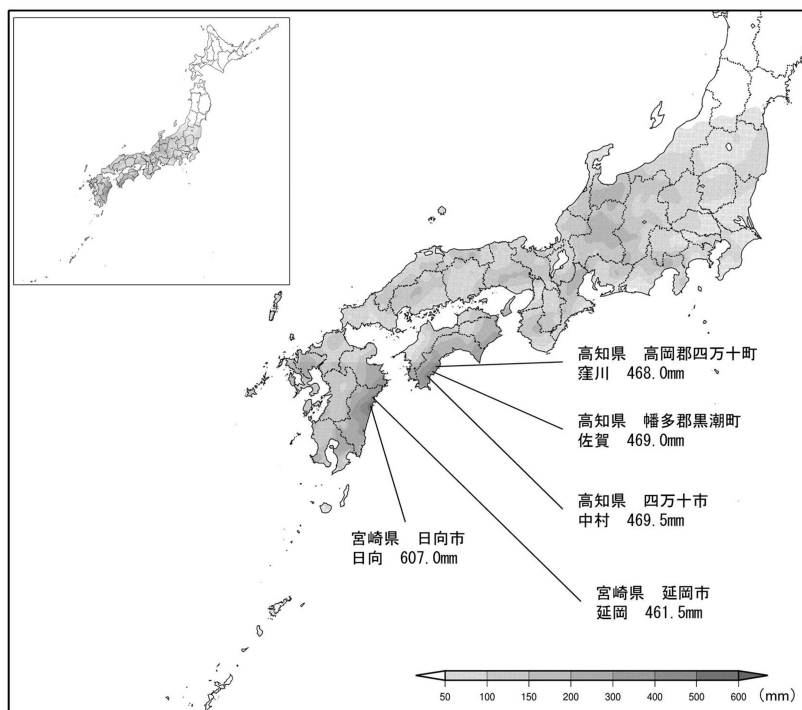
号は九州の南海上を北東に進んだ後、7日09時に屋久島の南海上で熱帯低気圧となった。また、前線を伴った低気圧が日本海北部から千島の東に進んだ。台風や低気圧、前線の影響で、沖縄地方や近畿地方では日降水量が200 mmを超えるなど、南西諸島から北日本にかけては大雨となった所があった。また、最大風速が沖縄県座間味村慶良間で20.3 m/sとなるなど、沖縄・奄美を中心に非常に強い風となり、海は大しけとなった所があった。

大雨の影響で、各地で土砂災害が発生し、北海道では死者1名の人的被害が発生した。また、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

(8) 9月17日～9月20日：全国（大雨，暴風，高波）＜台風第16号＞

9月13日03時に北マリアナ諸島の西海上で発生した台風第16号は、9月17日に沖縄県与那国島付近を北上した後、東シナ海を北東へ進み、9月20日00時過ぎに強い勢力で鹿児島県大隅半島に上陸した。その後、台風は四国沖を北東へ進み、9月20日13時半頃に和歌山県田辺市付近に再上陸し、更に17時過ぎに愛知県常滑市付近に再上陸した後、21時に東海道沖で温帯低気圧となった。

台風第16号や台風から変わった温帯低気圧、日本付近に停滞した前線の影響で、宮崎県や大分県で日降水量が300 mmを超えるなど、九州地方や四国地方の太平洋側を中心に日降水量が100 mmを超える大雨となった。第4図には9月17日から20日の総降水量分布図を示す。また、沖縄県与那国町与那国島で46.6 m/s、高知県室戸市室戸岬で33.7 m/sの最大風速を観測するなど、沖縄・奄美から東日本にかけて暴風となっ



※上位5位の地点については地点名・値を記載

第4図 総降水量分布図（期間：9月17日～9月20日）

たほか、沖縄・奄美から東日本にかけて大しけとなり、沖縄・奄美から西日本太平洋側にかけては猛烈なしけとなった所があった。

大雨により、土砂災害、浸水等が発生し、死者1名、負傷者48名の人的被害が発生した。また、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

(9) 9月28日～9月29日：西日本から東北地方（大雨，突風）＜前線，不安定＞

9月28日から29日にかけては、日本海から東北地方にかけて停滞する前線が南下して九州南部から本州南岸に達した。前線や湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、長崎県で日降水量が400 mmを超えるなど、西日本を中心に日降水量が100 mmを超える大雨となった所があった。

この影響で、西日本を中心に浸水害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。また、大気の状態が不安定となったため、28日には、JEF2の強さの竜巻が福岡県筑後市から八女市にかけて発生し、負傷者1名の人的被害、全壊1棟の住家被害が発生したほか、佐賀県でも竜巻が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

(10) 10月3日～10月5日：沖縄・奄美から東日本 (大雨, 暴風, 突風, 高波) <台風第18号>

9月29日15時にグアム島の西海上で発生した台風第18号は、フィリピンの東を西へ進み、その後北上して10月3日に沖縄本島地方に最も接近した後、九州の西海上で進路を次第に東よりに変え、対馬海峡から日本海へ進んで5日21時に能登半島付近で温帯低気圧に変わった。台風の影響により、沖縄県久米島町北原で最

大風速48.1 m/sを観測するなど、沖縄本島地方では猛烈な風が吹き、海は猛烈なしけとなった所があったほか、西日本から東日本にかけての広い範囲で日本海側を中心に暴風となり、海は大しけとなった。また、台風や前線、湿った空気の影響により、西日本では日降水量が100 mmを超える大雨となった所があった。

これらの影響により、沖縄・奄美から東日本にかけて、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。また、停電、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。また、大気の状態が不安定となったため、5日、JEF2の強さの竜巻が高知県高知市から南国市にかけて発生し、負傷者4名の人的被害、半壊1棟の住家被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

気候情報

2016年の台風

発生数は平年並、北日本への上陸・再上陸数4個

1. 概要

台風の発生数は平年並の26個(平年値25.6個)であった。日本への台風の接近数は平年並の11個(平年値11.4個)であったが、地域別にみると北日本、東日本(伊豆諸島・小笠原諸島除く)への接近数は平年よりも多く、特に北海道地方への接近数は5個と統計開始以降、最多となった。上陸数は第7号、第9号、第10号、第11号、第12号、第16号の6個(平年値2.7個)と平年を上回った。また、北海道への年間2個(再上陸も含めると3個)の台風の上陸、東北太平洋側への台風上陸は、いずれも1951年の統計開始以来初めてであった。

第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第1号(1601 NEPARTAK)

7月2日21時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、3日09時に同海域で台風第1号となった。台風は、引き続き北西に進み、6日15時に沖縄の南海上で勢力が最大となった後、8日に台湾を横断した。その後、台風は9日09時に華南に上陸した後、同日15時に同地域で熱帯低気圧に変わり、10日15時に同地域で消滅した。

第1表 平成28年(2016年)の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び平成27年(2015年)との比較。

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成27年 (2015年)	発生数	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27
	上陸数							2	1	1				4
	接近数					2		3	4	4		1		14
平成28年 (2016年)	発生数							4	7	7	4	3	1	26
	上陸数								4	2				6
	接近数							1	5	4	1			11

(注)・平年値は、昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいう。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

接近*2 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300 km以内に入った場合をいう。

(2) 台風第5号(1605 OMAIS)

8月2日21時に北マリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北に進み、4日09時に同海域で台風第5号となった。台風は、引き続き北に進み、6日15時に小笠原諸島近海で勢力が最大となった。その後、台風は進路を北東に変え、10日03時に北海道のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、12日15時前にベーリング海で東経180度を越えた。

(3) 台風第6号(1606 CONSON)

8月7日21時にウェーク島近海で発生した熱帯低気圧は南西に進み、9日09時に南鳥島近海で台風第6号となり、北西に進んだ。台風は、進路を北北東に変えて進んだ後、北北西に進み、13日15時に日本の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北北西に進み、15日08時頃に北海道根室半島を通過した。台風は、同日09時にオホーツク海で温帯低気圧に変わり、北に進んで17日03時に同海域で消滅した。

(4) 台風第7号(1607 CHANTHU)

8月12日09時に北マリアナ諸島の西の海上で発生した熱帯低気圧は北東に進み、14日03時に同海域で台風第7号となった。その後、台風は北に進み、進路を北西に変えた後、再び進路を北に変え、17日09時に東北地方の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北に進み、同日17時30分頃に北海道襟裳岬付近に上陸した。その後、台風は18日03時にサハリン付近で温

帯低気圧に変わり、19日03時にオホーツク海で北緯60度を越えた。

(5) 台風第9号(1609 MINDULLE)

8月17日09時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は東に進んだ後、進路を北西に変え、19日15時に同海域で台風第9号となった。台風は、進路を北に変え、22日03時に八丈島近海で勢力が最大となった後、同日12時30分頃に千葉県館山市付近に上陸して北北東に進んだ。台風は、東日本及び北日本を進んだ後、23日06時前に北海道日高地方中部に再上陸した。台風は、23日12時にオホーツク海で温帯低気圧に変わり、同日15時に同海域で消滅した。

(6) 台風第10号(1610 LIONROCK)

8月17日09時に南鳥島の東北東海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、速度を落としながら進路を南西に変え、21日21時に四国の南海上で台風第10号となった。台風は、急激に進路を南東に変えた後、徐々に進路を再び南西に変えて進んだ。その後、台風は26日03時に南大東島の南海上で急激に進路を東に変えた後、速度を上げながら進路を北東に変え、28日15時に父島の西の海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に進路を北北西に変え、30日17時30分頃に岩手県大船渡市付近に上陸した後北西に進んだ。その後、台風は31日00時に日本海で温帯低気圧に変わり、同日09時に同海域で消滅した。

第2表 平成28年(2016年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置,又は域外に出た最初の日時						
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧	風速	強風半径	月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経			
1	NEPARTAK	7 2 21	8.3	145.1	7 3 09	8.9	144.9	7 7 21	900	7 7 21	55	7 8 03	390	7 9 15	24.8	118.5	TD	7 10 09	26.4	116.7
2	LUPIT	7 23 03	24.6	151.5	7 24 03	28.9	157.1	7 24 21	1000	7 24 21	20	7 24 21	E:190 W:150	7 25 03	37.2	159.5	L	7 26 15	48.4	152.1
3	MIRINAE	7 25 21	17.2	114.7	7 26 15	18.5	112.0	7 27 21	980	7 27 21	30	7 28 03	E:220 W:170	7 28 15	21.2	105.0	TD	7 28 21	22.0	104.9
4	NIDA	7 29 21	11.7	127.1	7 30 15	15.5	125.8	7 31 21	975	7 31 21	30	8 1 15	SE:390 NW:280	8 2 21	23.9	110.8	TD	8 3 09	25.0	107.9
5	OMAIS	8 2 21	16.7	148.8	8 4 09	18.4	148.5	8 7 15	975	8 7 15	30	8 6 21	NE:700 SW:390	8 10 03	44.1	151.7	L	8 12 15		域外
6	CONSON	8 7 21	18.8	163.0	8 9 09	16.9	159.3	8 14 15	985	8 14 15	23	8 14 15	NE:650 SW:280	8 15 09	43.6	145.6	L	8 16 21	58.7	143.1
7	CHANTHU	8 12 09	16.0	137.6	8 14 03	20.9	142.9	8 17 18	980	8 17 21	30	8 17 03	E:390 W:220	8 18 03	47.7	144.6	L	8 19 03		域外
8	DIANMU	8 15 15	21.7	117.0	8 18 03	21.1	112.2	8 19 15	980	8 19 15	20	8 18 15	SE:440 NW:220	8 19 21	20.8	104.8	TD	8 20 03	21.2	102.5
9	MINDULLE	8 17 09	15.3	138.9	8 19 15	17.8	141.8	8 22 12	975	8 22 12	35	8 23 00	SE:330 NW:170	8 23 12	45.1	145.3	L	8 23 12	45.1	145.3
10	LIONROCK	8 17 09	26.4	159.1	8 21 21	29.2	133.3	8 29 03	940	8 29 03	45	8 30 21	SE:600 NW:440	8 31 00	42.0	138.0	L	8 31 03	43.9	135.7
11	KOMPASU	8 18 21	22.3	152.8	8 20 09	32.9	147.3	8 20 21	994	8 21 23	18	8 20 15	NE:440 SW:220	8 22 03	45.0	145.0	L	8 22 15	48.2	147.0
12	NAMTHEUN	8 31 09	21.1	123.2	9 1 09	23.8	127.7	9 3 12	955	9 3 12	35	9 3 21	E:170 W:110	9 5 03	33.1	129.8	TD	9 5 21	35.9	132.3
13	MALOU	9 5 21	24.8	124.8	9 6 15	27.6	126.8	9 7 03	1000	9 7 03	20	9 6 21	SE:280 NW:170	9 7 09	29.2	130.3	TD	9 7 15	29.1	132.1
14	MERANTI	9 9 21	13.7	141.7	9 10 15	14.8	139.2	9 13 21	890	9 13 21	60	9 13 03	NE:440 SW:390	9 15 21	27.0	117.1	TD	9 17 21	33.2	125.2
15	RAI	9 11 15	12.3	114.3	9 13 03	15.5	108.9	9 13 09	996	9 13 09	18	9 13 03	N:280 S:110	9 13 15	16.0	105.9	TD	9 14 03	16.1	103.5
16	MALAKAS	9 12 03	12.5	144.8	9 13 03	13.8	139.4	9 17 12	930	9 19 18	50	9 20 13	N:440 S:330	9 20 21	34.5	138.1	L	9 20 21	34.5	138.1
17	MEGI	9 23 03	15.4	141.1	9 24 03	16.9	137.6	9 27 12	945	9 27 12	45	9 27 12	NE:600 SW:440	9 28 21	25.4	116.7	TD	9 29 15	26.5	117.2
18	CHABA	9 25 03	14.9	164.6	9 29 15	13.7	141.8	10 4 00	905	10 4 00	60	10 5 18	SE:440 NW:280	10 5 21	38.7	136.7	L	10 8 03		域外
19	AERE	10 4 21	19.2	130.0	10 6 03	20.1	122.1	10 8 03	975	10 8 03	30	10 9 15	NE:220 SW:170	10 10 09	22.1	118.0	TD	10 10 09	22.1	118.0
20	SONGDA			域外	10 8 21	19.9	154.4	10 12 09	925	10 12 09	50	10 11 09	NE:330 SW:280	10 13 15	40.3	171.1	L	10 14 03		域外
21	SARIKA	10 13 09	12.9	129.4	10 14 03	13.5	127.3	10 16 03	935	10 16 03	50	10 18 03	N:390 S:280	10 19 15	21.7	108.1	TD	10 20 03	22.4	108.0
22	HAIMA	10 14 21	7.4	144.5	10 15 09	8.8	142.9	10 19 15	900	10 19 15	60	10 20 15	500	10 22 03	25.9	115.5	TD	10 26 15	27.8	145.4
23	MEARI	10 31 03	10.1	146.9	11 3 09	13.3	137.3	11 6 21	960	11 6 21	40	11 7 09	NW:500 SE:280	11 7 15	28.3	147.5	L	11 10 03	39.0	165.5
24	MA-ON	11 9 03	12.8	161.4	11 10 09	16.9	156.9	11 11 15	1002	11 12 03	18	11 11 15	170	11 12 09	20.8	145.5	TD	11 13 09	21.3	141.4
25	TOKAGE	11 24 09	9.7	126.8	11 25 21	11.7	120.7	11 26 09	992	11 26 09	25	11 27 21	220	11 28 09	17.1	118.7	TD	11 28 09	17.1	118.7
26	NOCK-TEN	12 20 21	6.2	144.5	12 22 03	7.8	140.0	12 25 09	915	12 25 09	55	12 25 21	N:330 S:170	12 28 03	13.3	114.7	TD	12 28 21	11.2	111.4

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

第3表 平成28年(2016年)に日本に影響*1した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く)。

台風 番号	日本への影響*1			日本への接近*2			上陸, 通過
	月日		地域	月日		地域	
	始	終		始	終		
1	7/7	7/9	沖縄地方	7/7	7/8	沖縄地方	上陸または通過せず。
5	8/8	8/10	東海地方, 伊豆・小笠原諸島, 関東甲信地方, 北日本				上陸または通過せず。
6	8/14	8/15	北日本	8/15	8/15	北海道地方	15日08時頃, 根室半島を通過した。
7	8/14	8/18	近畿地方, 東日本, 北日本	8/15	8/18	東日本, 北日本	17日17時半頃, 北海道襟裳岬付近に上陸した。
9	8/20	8/23	四国地方, 中国地方, 近畿地方, 東日本, 北日本	8/20	8/23	東日本, 北日本	22日12時半頃, 千葉県館山市付近に上陸した。 23日06時前, 北海道日高地方中部に再上陸した。
10	8/21	8/30	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 東日本, 北日本	8/21	8/30	沖縄地方, 九州南部, 関東甲信地方, 北陸地方, 北日本	30日17時半頃, 岩手県大船渡市付近に上陸した。
11	8/20	8/22	東日本, 北日本	8/20	8/22	関東甲信地方, 北日本	21日23時過ぎ, 北海道釧路市付近に上陸した。
12	9/1	9/5	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	9/1	9/5	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	5日01時過ぎ, 長崎県長崎市付近に上陸した。
13	9/6	9/7	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方	9/6	9/7	沖縄・奄美, 九州南部	上陸または通過せず。
14	9/13	9/15	沖縄地方				上陸または通過せず。
16	9/16	9/20	沖縄・奄美, 西日本, 東日本, 東北地方	9/16	9/20	沖縄・奄美, 西日本, 東日本	20日00時過ぎ, 鹿児島県大隅半島に上陸した。 20日11時頃, 高知県室戸岬付近を通過した。 20日13時半頃, 和歌山県田辺市付近に再上陸した。 20日17時過ぎ, 愛知県常滑市付近に再上陸した。
17	9/26	9/28	沖縄地方	9/26	9/28	沖縄地方	上陸または通過せず。
18	10/2	10/5	沖縄・奄美, 西日本, 東海地方, 関東甲信地方, 北陸地方, 東北地方	10/3	10/5	沖縄・奄美, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方, 近畿地方, 東海地方, 関東甲信地方, 北陸地方	上陸または通過せず。
19	10/6	10/6	沖縄地方				上陸または通過せず。
20	10/10	10/11	伊豆・小笠原諸島				上陸または通過せず。
23	11/7	11/7	伊豆・小笠原諸島				上陸または通過せず。

*1 ここでは, 台風の中心が, 国内のいずれかの気象官署等から500 km 以内に入った場合をいう。

*2 台風の中心が, 国内のいずれかの気象官署等から300 km 以内に入った場合をいう。

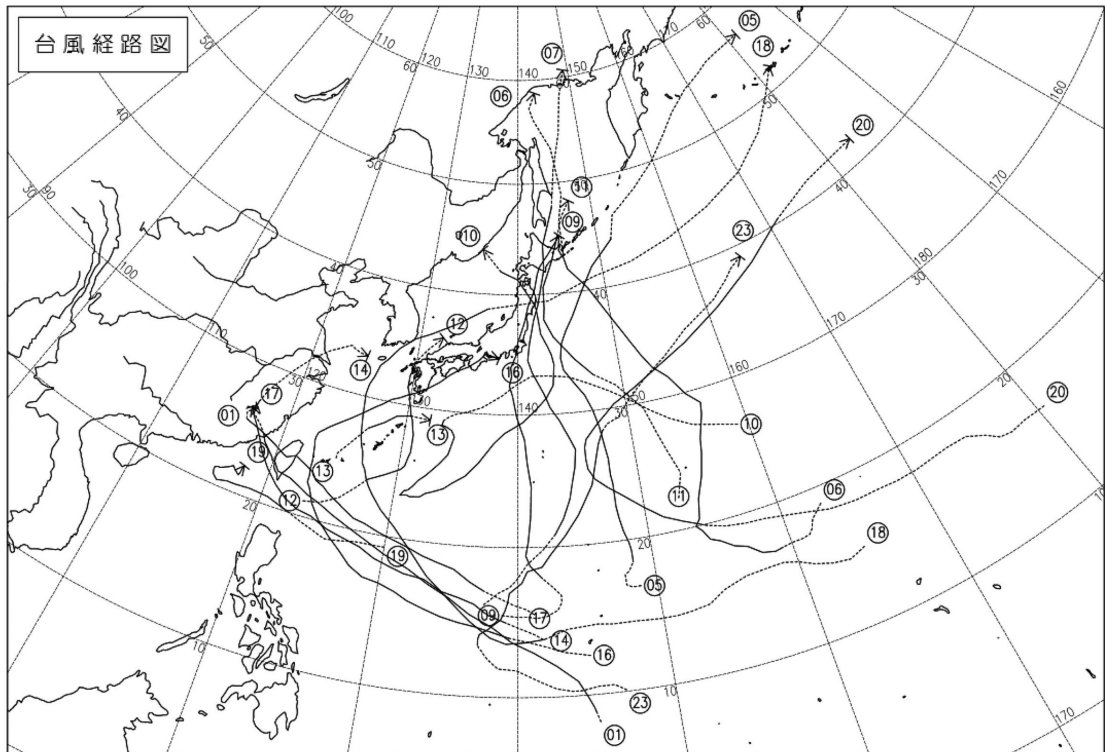
(7) 台風第11号 (1611 KOMPASU)

8月18日21時に南鳥島近海で発生した熱帯低気圧は北に進み, 徐々に進路を北西に変えた後, 20日09時に日本の東の海上で台風第11号となり, 勢力が最大となった。その後, 台風は進路を北北東に変え, 21日23時過ぎに北海道釧路市付近に上陸した後, 22日03時にオホーツク海で温帯低気圧に変わり, 同日21時に同海

域で消滅した。

(8) 台風第12号 (1612 NAMTHEUN)

8月31日09時にルソン海峡付近で発生した熱帯低気圧は北東に進み, 9月1日09時に沖縄の南海上で台風第12号となった。台風は, 進路を北に変えた後, 3日03時に奄美大島の東海上で勢力が最大となった。台風



丸で囲った数字は台風番号である。→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

第1図 2016年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

は、引き続き北に進み、5日01時過ぎに長崎県長崎市付近に上陸し、同日03時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は進路を北東に変え、6日03時に日本海で消滅した。

(9) 台風第13号 (1613 MALOU)

9月5日21時に宮古島近海で発生した熱帯低気圧は北東に進み、6日15時に久米島の北の海上で台風第13号となり、勢力が最大となった。台風は徐々に進路を東に変え、7日09時に屋久島の南海上で熱帯低気圧に変わり、7日21時に九州の南海上で消滅した。

(10) 台風第14号 (1614 MERANTI)

9月9日21時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、10日15時に同海上で台風第14号となった。台風は、引き続き西北西に進み、13日21時にルソン島の北の海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に進路を北西に変え、15日午前中華南に上陸した後、進路を北北東に変え、同日21時に同地域

で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、16日15時に長江の河口で温帯低気圧に変わり、18日03時にチェジュ島付近で消滅した。

(11) 台風第16号 (1616 MALAKAS)

9月12日03時にグアム島の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、13日03時に北マリアナ諸島の西海上で台風第16号となった。台風は、引き続き西北西に進んだ後、徐々に進路を北に変え、17日03時に与那国島の南海上で勢力が最大となった。台風は、東シナ海に達した後、進路を北東に変え、20日00時過ぎに鹿児島県大隅半島に上陸し、続いて同日13時半頃に和歌山県田辺市付近に再上陸し、更に同日17時過ぎに愛知県常滑市付近に再上陸した。台風は、同日21時に東海道沖で温帯低気圧に変わり、21日03時に消滅した。

(12) 台風第17号 (1616 MEGI)

9月23日03時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、24日03時に同海域で台風第

17号となった。台風は、引き続き北西に進んだ後、27日09時に石垣島の南西海上で勢力が最大となり、同日午後台湾に上陸した。台風は、台湾海峡に達した後、28日09時前に華南に再上陸した。台風は、北西に進み、同日21時に同地域で熱帯低気圧に変わり、進路を北東に変え、29日21時に消滅した。

(13) 台風第18号 (1618 CHABA)

9月25日03時にウェーク島の南西海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、29日15時にグアム島の西海上で台風第18号となった。台風は進路を北西に変え、10月3日18時に沖縄の南西海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に進路を北東に変え、5日21時に能登半島付近で温帯低気圧に変わり、東北東に進んで、8日03時前にアリューシャン近海で東経180度を越えた。

(14) 台風第19号 (1619 AERE)

10月4日21時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、6日03時に台湾の南海上で台風第19号となり、西北西に進んだ。台風は8日03時に南シナ海で勢力が最大となった。台風はその後ほとんど停滞し、10日09時に熱帯低気圧に変わり、同日15時に同海域で

消滅した。

(15) 台風第20号 (1620 SONGDA)

10月4日03時過ぎに熱帯低気圧がマーシャル諸島の北東海上で東経180度を越えて北太平洋西部に進み、西北西に進んで、8日21時に南鳥島の南海上で台風第20号となった。台風は、進路を北東に変え、12日03時に伊豆諸島の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北東に進み、13日15時にアリューシャンの南海上で温帯低気圧に変わり、同日21時過ぎに東経180度を越えた。

(16) 台風第23号 (1623 MEARI)

10月31日03時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、徐々に進路を北東に変え、11月3日09時にマリアナ諸島の西海上で台風第23号となった。台風は、5日21時に小笠原諸島の南海上で勢力が最大となった後、7日15時に同諸島の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は引き続き北東に進み、10日09時に日本のはるか東海上で消滅した。

(気象庁予報部予報課)